

都市再生整備計画及び社会資本総合整備計画 事後評価シート

嬉野市市街地地区(都市再生整備計画)
集約と連携による新しい嬉野市の構築(社会資本総合整備計画)

平成29年3月

佐賀県嬉野市

様式2-1 評価結果のまとめ

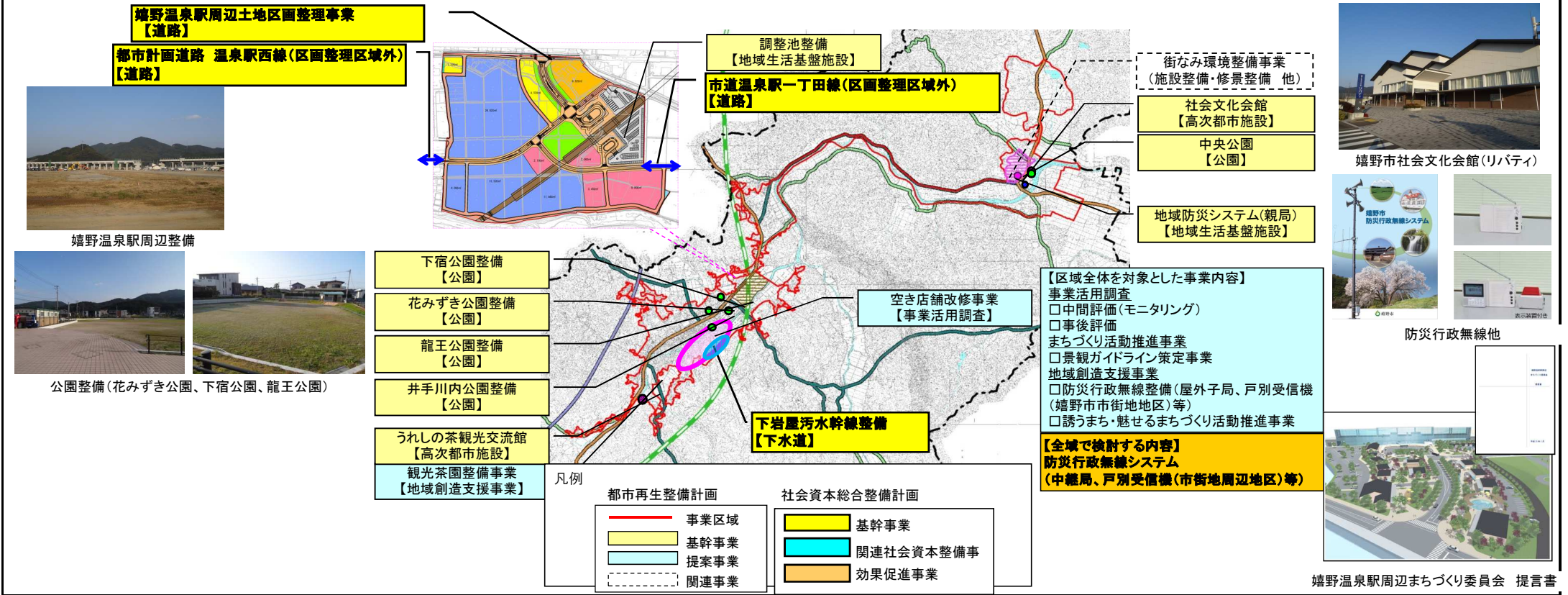
都道府県名	佐賀県	市町村名	嬉野市	地区名	嬉野市市街地地区(社:集約と連携による新しい嬉野市の構築)			面積	990ha
交付期間	平成24年度～平成28年度	事後評価実施時期	平成28年度	交付対象事業費	3,287(社:4742.6)百万円	国費率	0.4		
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名							
		基幹事業	<都市再生整備計画(基幹事業)> 公園(下宿公園、花みずき公園、井手川内公園、龍王公園、中央公園)、地域生活基盤(調整池整備、防災行政無線整備(親局、システム))、高次都市施設(うれしの茶観光交流館、社会文化会館) <社会資本総合整備計画(基幹事業・関連社会資本整備事業)> 街路(嬉野温泉駅周辺土地区画整理事業、県道温泉駅線・温泉駅一丁田線)、下水道(下岩屋汚水幹線整備、井手川内地区汚水枝線整備)						
	提案事業	<都市再生整備計画(提案事業)> 観光茶園整備事業、防災行政無線整備(戸別受信機:嬉野市街地地区)、誘うまち・魅せるまちづくり活動推進事業、空き店舗改修事業、事業効果分析(事後評価)、景観ガイドライン策定事業 <社会資本総合整備計画(効果促進事業)> 下水道(井手川内地区小規模汚水管整備)、市街地整備(防災行政無線システム(中継局、戸別受信機等))							
	当初計画から削除した事業	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		基幹事業	<都市再生整備計画> ・駅前公園 ・駅西シンボルロード緑地 ・観光文化交流センター <社会資本総合整備計画(基幹事業・関連社会資本整備事業)> ・都市計画道路 下宿大通り線 ・市道諸津線 ・市道今寺落合線 ・市道湯野田小川内線 ・市道下野辺田西山線 ・橋梁補修整備事業	・(駅前公園、駅西シンボルロード緑地)嬉野駅周辺地区土地区画整理事業区域内に位置付けられた事業で、区画整理事業と並行して工事を行っている新幹線の高架橋工事の工程に遅れが生じたため。 ・(観光文化交流センター)バスセンターとの移設・統合や計画位置	・(駅前公園、駅西シンボルロード緑地)「景観」「安全」の指標に関係するが、数値目標は据え置く。 ・(観光文化交流センター)指標1の数値目標を下方修正				
		提案事業	中間評価(モニタリング)※削除予定	—	—				
		新たに追加した事業	<都市再生整備計画> — <社会資本総合整備計画(基幹事業・関連社会資本整備事業)> ・下宿第2汚水幹線整備 ・嬉野総合運動公園汚水枝線整備	・うるおいある生活環境(定住)の促進に向けて、下水道整備を追加	・指標5へ貢献する事業となるが、下水道処理区域の変更はないため指標の変更はない				
提案事業	—	—	—						
交付期間の変更	当初	平成24年度～平成28年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	—					
変更	—								

	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	主要な交流施設の利用者数	人/年	0	H22	45,000	H28	—	62,235	○	あり なし	塩田中学校、中央公園を一体的に整備することで、拠点としての認識の高まりや防災行政無線等を活用したイベント情報の発信等により利用増につながった。	平成29年度内
	指標2	まちの景観に関する満足度	ポイント	2.89	H21	3.00	H28	—	2.88	×	あり なし ●	嬉野温泉駅周辺のまちのシンボリックな景観の創出には至らず満足度は伸びていない。(駅周辺は造成中で景観創出に至っていない)	平成29年度内
	指標3	安全・安心な住環境に関する満足度	ポイント	2.80	H21	2.95	H28	—	2.86	△	あり なし ●	防災行政無線等により、正確かつ迅速な災害情報の伝達は達成され一定の効果は発現するが、目標値は未達成	平成29年度内
	指標4 (社会資本)	道路・交通環境に関する満足度	ポイント	2.89	H21	3.06	H28	—	2.90	△	あり なし ●	都市再生・社会資本による事業効果が局所的な道路整備であったため、指標改善に至っていない	平成29年度内
	指標5 (社会資本)	下水道処理人口普及率	%	19.7	H22	22.0	H28	—	23.4	○	あり なし	各種下水道事業の実施により下水道処理人口普及率が着実に増加	平成29年度内
	指標6 (社会資本)	嬉野地区、塩田地区で活動する「まちづくり組織の団体数(新規)」	団体	0	H22	3	H28	—	1	△	あり なし ●	駅周辺のまちづくりに向けた組織ができ一定の効果は発現。目標は未達成となるが、既存組織による活動数や各種団体の連携は増え一定の効果は発現。	平成29年度内
	指標7 (社会資本)	暮らしやすさに関する満足度	ポイント	3.00	H21	3.11	H28	—	3.06	△	あり なし ●	安全・安心な住環境の形成、道路・下水道等の都市基盤整備は進み一定の効果は発現するが、目標値は未達成	平成29年度内
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	身近な公園、レクリエーションに係る公園に関する満足度	ポイント	2.80	H21	/	/	—	3.03	/	/	公園整備により、満足度が高まった。また、避難地の確保による安全・安心な市街地形成や住環境の改善が進んだ	/
	その他の数値指標2	空き店舗率	%	20.0	H22	/	/	—	16.4	/	/	空き店舗改修事業、各種まちづくり活動により空き店舗の改善が進んだ。	/
	その他の数値指標3	イベントの開催数	回	0	H22	/	/	—	5	/	/	各種まちづくり活動、住民参加の取り組みを通じて、イベント開催数(住民の主体的な関わり)が増えた。	/
4) 定性的な効果発現状況	<p>・誘うまち・魅せるまちづくり活動による「賑わいLab」の開催を通じて、旅館業・商店街・業など、各種団体の連携や市民・事業者・行政など横のつながりも形成され、住民による賑わいの形成や新たな取り組みに対する提案やその実現に対する調整が円滑に進んでいる。</p> <p>・空き店舗改修に当たっては、嬉野市商工会、嬉野温泉商店街等と連携しながら進めており、空き店舗の改修のみならず、商店街のあり方に向けた意見交換を行うなど、横のつながりができている。また、空き店舗の改修により、商店街の景観についても変化し、市民の美観意識の向上やまちづくりに対する認識が高まっている。</p> <p>・防災行政無線を活用し、防災訓練の実施が行われるほか、地域活動のPRやイベント情報の発信等も進めており、地域コミュニティの形成やイベント参加者数の増加等につながっている。</p> <p>・景観ガイドライン策定事業を通じて、「嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会 提言書」の策定やシンポジウムの開催が行われた。これにより、嬉野温泉駅周辺のまちづくりに対する関係者の意識の共有が深まり、協働によるまちづくりの機運が高まっている。また、嬉野市の新たな玄関口として、駅周辺の美観意識や拠点性に対する意識も高まり、各種提案がなされ、駅周辺まちづくりのブラッシュアップが図られた。</p>												
5) 実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス	「嬉野温泉賑わいLab」の開催 「嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会」の開催 「佐賀大学大学院 建築・都市デザイン特別演習Ⅰ」の開催					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 「嬉野温泉賑わいLab」「嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会」は、今後も、協働のまちづくりを進めて行くための組織として、運営の支援等を行う。		
持続的なまちづくり体制の構築	「嬉野温泉賑わいLab」 「NPO塩田津町並み保存会」					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 「嬉野温泉賑わいLab」は、任意団体であるため、今後NPO法人等も視野に入れた検討を進める。 「NPO塩田津町並み保存会」は、今後も市民主体の活動を支援していく。			

様式2-2 地区の概要

嬉野市市街地地区(佐賀県嬉野市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 地域特性を発揮するままとまり(集約)ある拠点の創出と安全・安心な市街地環境の形成 目標1: 地域の個性や魅力の創出に向けた、拠点の形成…【魅せるまちの形成】 目標2: 連携や交流、訪れる人を迎える「もてなし基盤」の創出…【誘うまちの形成】 目標3: みんなが暮らし続けたいと感じる安全・安心な生活環境の形成…【市民が親しめるまちの構築】	主要な交流施設の利用者数	単位: 人/年	0	H22	45,000	H28	62,235	H28
	まちの景観に関する満足度	単位: ポイント	2.89	H21	3.00	H28	2.88	H28
	安全・安心な住環境に関する満足度	単位: ポイント	2.80	H21	2.95	H28	2.86	H28
「集約と連携による新しい嬉野市の構築」 ○集約型の都市構造の構築、地域コミュニティの維持の視点のもと、地域の個性や魅力の創出に向けた拠点づくり ○佐賀県南部の交流拠点、高度医療の中核都市として、また安全な都市づくりとして市内外の道路・交通環境の向上や人と人との交流づくりなど、新しい嬉野市の創出に向けた連携・交流基盤の創出 ○将来予定されている九州新幹線西九州ルートの開通を起爆剤として、駅周辺の社会基盤整備の推進や人による賑わいの創出など、継続的なハード・ソフトの取組の推進によるもてなし基盤の形成 ○地区拠点を高める事で集約型の都市づくりを進め、加えて生活を支える基盤整備や防災環境を形成することで、安全・安心、そしてうるおいとゆとりある生活環境(定住)の創出	道路・交通環境に関する満足度	単位: ポイント	2.89	H21	3.06	H28	2.90	H28
	下水道処理人口普及率	単位: %	19.7	H22	22.0	H28	23.4	H28
	「まちづくり組織の団体数(新規)」	単位: 団体	0	H22	3	H28	1	H28
	暮らしやすさに関する満足度	単位: ポイント	3.00	H21	3.11	H28	3.06	H28



<p>まちの課題の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・塩田地域では、社会文化会館、塩田中学校、中央公園、伝建地区等を一体的に整備することで、塩田地区の拠点地区の形成が進んでいる。 ・嬉野地域では、空き店舗改修やイベント活動等により、商店街の魅力の形成や賑わいの創出につながっている。しかし、日帰りの観光客数は増加する一方で、宿泊客数は平成19年(730千人)をピークに減少しており、観光地としての回遊性を高めることが求められる。 ・景観ガイドライン策定、誘うまち・魅せるまちづくり活動推進事業、空き店舗改修を通じて、母体となる組織の構築や関係機関の連携が進み住民主体のまちづくりへの機運は高まりつつある。 ・「嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会 提言書」による景観やまちづくりに対する意識・意欲も高まり、各種提案がなされ、駅周辺まちづくりのブラッシュアップが図られた。しかし、一方で駅周辺の魅力的な空間を創出する仕組みはこれからであり、その体制づくりが求められる。 ・区画整理事業、道路、調整池等の整備により、嬉野温泉駅周辺の基盤整備は進んでいるが、完成にはいっておらず、継続的に都市基盤の整備を進めることが求められる。加えて、平成34年の新幹線の開業効果を高めていくため、交通結節点として、嬉野温泉駅と温泉街を結ぶ交通機能の確保、駅周辺のにぎわいの創出や訪れる人をもてなす拠点としての整備を進めることが求められる。 ・防災行政無線の整備による災害に対する情報発信、公園や調整池整備による、災害時の避難場所の確保など安全・安心な市街地環境の形成が進んでいる。 ・各種下水道整備の実施により、下水道の普及率が高まることで、住民人にとって都市基盤が整った良好な都市環境の形成が進んでいる。
<p>今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)</p>	<p><塩田地区周辺の拠点整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会文化会館を活用した定期的なイベント等の開催の他、塩田地区の拠点性を維持するとともに、人口減少化においても拠点地区及び及びその周辺の生活利便性を維持していくため、都市機能の集約を進める。 <p><嬉野市の新たな玄関口となる拠点性の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新幹線利用者だけでなく地域住民をはじめ、住む人・訪れる人が憩いや癒しを感じるとともに、そこで滞留し、賑わうことの出来るシンボリックな駅前周辺の整備を進める。 ・交通結節点として人・もの・情報が交流する拠点の形成に向けて、観光交流センターの整備を進める。 ・嬉野らしい景観の創出など、玄関口に相応しい都市空間の創出に向けて、景観ガイドラインの策定を進める。 <p><住民主体の組織づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州新幹線西九州ルートの開業を契機として、地域の賑わいや活力を創出するため、まちづくり活動の母体となる組織づくりを進める。 ・上記組織が主体となって、市民が親しみをもち、来街者を誘い、地域を魅せる、市民主体の各種まちづくり活動を進める。 ・駅周辺にふさわしい土地利用の推進や都市空間の創出のため、まちづくりの将来像を共有し、地区の魅力や価値を高めるエリアマネジメント等の取り組みに向けて、官民連携によるまちづくりの検討を進める。 <p><嬉野温泉駅と嬉野温泉街を結ぶ仕組みの検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ・嬉野温泉街と嬉野温泉駅の快適な移動をサポートするため、新たな交通機能の検討を進める。 ・新幹線から嬉野温泉街へスムーズに行けるアクセス道路や自転車ルートの創出に向けて、交通基盤整備や社会実験等を行う。 <p><観光拠点となる嬉野温泉街の再生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・嬉野温泉街の回遊性を高めるため、メイン通りとなる「本通り(嬉野温泉商店街)」の回遊性の向上や周辺の空き店舗活用等を進め、賑わいの再生を図る。 ・嬉野温泉街に訪れる人が楽しく回遊したり、休憩したりできる、滞留性の高い都市空間の創出に向けて、まちなか広場の整備を進める。